

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月11日現在

機関番号：33305

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21401031

研究課題名（和文） ロシア沿海地方における渤海（698～926年）の考古学的研究

研究課題名（英文） The archaeological study of Bohai (698-926) at the maritime region of Russia.

研究代表者

小嶋 芳孝 (Kojima Yoshitaka)

金沢学院大学・文学部歴史文化学科・教授

研究者番号：10410367

研究成果の概要（和文）：本研究はロシア沿海地方における渤海の実態を考古学的に解明することを目的とし、遺跡データベースの構築と遺跡や出土遺物の調査を行った。研究の結果、渤海はウスリースク平野までの沿海地方南部を面的に支配し、ウスリー川流域やシホテアリン山脈など沿海地方北部では鉱物資源の採掘場所や金属生産の拠点と交易拠点を中心に支配していた可能性の高いことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the investigation is to make clear about the Bohai nation at the maritime province of Russia by the archaeological study. The result of the investigation, we elucidated that Bohai controlled the south area of maritime province where includes the Ussrisk plain Russia. As to the north area of maritime province, it has a possibility that Bohai mainly controlled the place of the mineral resource, metal production and the market.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2010年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2011年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
年度			
総計	11,100,000	3,330,000	14,430,000

研究分野：人文学B

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：渤海、靺鞨、女真、ロシア、沿海地方

1. 研究開始当初の背景

- (1) 渤海(698~926年)は日本に34回の使節を派遣し、日本と深い関わりを持っていた。渤海史や日渤交流史の研究は、文献史学を中心として活発に行われてきた。
- (2) 渤海の領域は、中国・ロシア・北朝鮮の三カ国にわたっており、考古学的な研究は中国を中心に行われてきた。ロシア沿海地方の考古学的な調査情報は、日本にあまり知られていない。
- (3) 古代の北海道や北東北では、沿海地方やアムール川流域と交流があったとする研究が行われているが、沿海地方の考古学調査・研究に関する情報は日本にあまり伝わってこない。

2. 研究の目的

ロシア沿海地方における渤海時代の考古学的調査成果を調査・収集し、遺跡の実態を考古学的に解明することを目的としている。

3. 研究の方法

- (1) 研究交流協定 研究に当たって、研究代表者が勤務する金沢学院大学とロシア科学アカデミー極東支部考古学歴史学民族学研究所(以下研究所と記す)と研究交流協定を締結している。この協定では、以下の項目を中心に研究交流することとしている。
 - ① ロシア沿海地方の渤海を中心とする時代の遺跡データベースを構築
 - ② ロシア沿海地方の渤海時代遺跡踏査
 - ③ ロシア沿海地方の渤海遺跡から出土した土器、金属器、ガラス製品等の遺物調査
- (2) データベース ロシア沿海地方の渤海遺跡データベースは、研究所附属博物館・館長のY.ニキーチン氏を中心になって進めてきた。遺跡地名表、関連文書などを集成し、あわせて遺跡分布地図も作成している。
- (3) 遺跡踏査 Y.ニキーチン氏と共同でロシア沿海地方における渤海時代の遺跡を踏査した。三年間で以下の地域を踏査した。
 - ①2009年度：ラズドリナヤ河流域
 - ②2010年度：ウスリー河流域
 - ③2011年度：沿海地方北部の海岸地域
- (4) 遺物の調査 毎年冬季に研究所で遺物の調査を実施した。夏期調査で採集した遺物を中心に実測・写真撮影を行った。また、研究所が過去に発掘し、報告書で公表されている土器も可能な限り実測・写真撮影を行った。

4. 研究成果

- (1) データベース Y.ニキーチン氏を中心になって作成しているデータベースは、2011年

度段階では集成途中で未完だったが、この報告をまとめている段階では*カ所の遺跡を集成している。ただし、渤海以前の靺鞨や渤海後の女真関係の遺跡との識別が難しく、渤海時代前後の遺跡を相当数含んだ内容となっている。

(2) 遺跡踏査 ラズドリナヤ河流域ではクロウノフカ谷周辺の仏教寺院群と、中国国境近くのコンスタンチノフカ遺跡群を中心に踏査した。ウスリー河流域では、支流のイマン川の谷筋を中心に踏査した。この地域では、これまで渤海の遺跡と考えられた遺跡が多くあったが、今回の踏査により渤海末期ないし直後の遺跡が多いことが判明した。また、この地域では契丹系土器を出土する遺跡が多く、ラズドリナヤ河流域の様相とかなり異なっている事が明らかとなった。沿海地方北部海岸地域では、岬の上に立地する遺跡を多数実見することが出来た。これらの遺跡からは、靺鞨系の甕が出土している。また、シホテアリン山脈の海側斜面に位置するダルニエゴルスクには銅、マンガン、鉛、錫などを採掘する鉱山があり、近くのオリガ湾に臨むシニエスカルイ遺跡では青銅器時代の銅剣や釦の鋳型が出土している。この地域では青銅器時代から金属資源の採掘が行われ、おそらく渤海時代にも試掘が行われていたと推測している。ウスリースクに近いゴルバトカ古城では、小型のルツボが多数出土しており、金、銅、錫などの金属成分が遺存していることを分析で確認している。渤海時代には、シホテアリン山中で採掘した金属原料を、ゴルバトカ古城まで運んで製品製作を行っていた可能性がある。

沿海地方では、ラズドリナヤ河流域までは瓦葺建物や寺院、横穴式石室墓などが分布しているが、この地域以北では瓦葺建物や横穴式石室墓は未発見である。遺跡の分布自体も少なくなるようで、これまで渤海時代とされてきたノヴォゴルデイエフカ山城など多くの遺跡は10世紀頃、すなわち渤海以降の造営だった可能性が高いことが判明した。ラズドリナヤ河以北では、交通路に関わる施設や金属資源採掘や生産に関わる施設などが点在してはいるが、渤海が面的に支配をしている様子では無いと考えている。この地域は渤海の辺境であるが、9世紀末には契丹系土器が伝播し、10世紀に入ると契丹系土器を基調とするパクロフカ文化を形成し、山城などが多数造営されている。10世紀に入って衰退する渤海と対照的な様相が興味深い。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 小嶋芳孝、Nikitin、Gelman ほか、ロシア沿海地方における渤海遺跡調査 (2009年)、金沢学院大学紀要 (文学・美術・社会学編)、第8号、査読無、2010、11-20
- ② 小嶋芳孝、Nikitin、Gelman ほか、ロシア沿海地方における渤海遺跡調査 (2010年)、金沢学院大学紀要 (文学・美術・社会学編)、第9号、査読無、2011、29-42
- ③ 小嶋芳孝、Nikitin、Gelman ほか、ロシア沿海地方における渤海遺跡調査 (2011年)、金沢学院大学紀要 (文学・美術・社会学編)、第10号、査読無、2012、1-20

[学会発表] (計8件)

- ① 小嶋芳孝、渤海の北辺を探る-PBA プロジェクト報告、金沢学院大学文化財学科卒業研究発表会での講演 2010年2月28日 石川県立美術館ホール
- ② 小嶋芳孝、PBAプロジェクト2009年度調査の概要、第11回・北アジア調査研究報告会、2010年3月14日、石川県立歴史博物館
- ④ 小嶋芳孝、渤海の北辺領域について、シンポジウム「極東の古代・中世における民族・文化の交流」、2010年3月24日、ロシア科学アカデミー極東支部歴史考古学民族学研究所 (ロシア連邦・ウラジオストク)
- ⑤ 小嶋芳孝、渤海の交通路、クラスキノ城跡発掘調査30周年記念シンポジウム、2010年9月6日・7日、ロシア科学アカデミー極東支部 (ロシア連邦・ウラジオストク)
- ⑥ 小嶋芳孝、ロシア沿海地方の渤海遺跡踏査報告、北アジア遺跡調査報告会、2011年3月5日・6日、札幌学院大学
- ⑦ 小嶋芳孝、Gelman、クラスキノ城跡から出土したアスファルト状物質と容器の研究、高句麗・渤海史研究の原状と地平・シンポジウム、2011年11月28日・29日、ロシア科学アカデミー極東支部 (ロシア連邦・ウラジオストク)
- ⑧ 小嶋芳孝、中澤寛将、ロシア沿海地方の渤海遺跡踏査報告 (2011年)、北アジア遺跡調査報告会、2012年2月11日・12日、東京大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小嶋芳孝 (KOJIMA YOSHITAKA)
金沢学院大学・文学部・教授
研究者番号：10410367

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

清水宣義 (SHIMIZU NOBUYOSHI)
金沢学院大学・文学部・教授
研究者番号：30206205

佐々木圭一 (SASAKI KEIICHI)

金沢学院大学・美術文化学部・教授
研究者番号 50340021

中村晋也 (NAKAMURA SHINYA)
金沢学院大学・文学部・准教授
研究者番号：10311003

田村晃一 (TAMURA KOICHI)
(財) 東洋文庫研究部・研究員
研究者番号：30082613

早乙女雅博 (SAOTOME MASAHIRO)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：80150035

手塚直樹 (TEZUKA NAOKI)

青山学院大学文学部・教授

研究者番号：80337857

清水信行 (SHIMIZU NOBUYUKI)

青山学院大学文学・教授

研究者番号：00178980

鈴木靖民(SUZUKI YASUTAMI)

国学院大学文学部・教授

研究者番号：20052160

酒寄雅志(SAKAYORI MASASHI)

国学院大学栃木短期大学・教授

研究者番号：90187055

(3)研究協力者

A. イブリエフ

ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考

古学民族学研究所・副所長

Y. ニキーチン

ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考

古学民族学研究所・附属博物館長

E. ゲルマン

ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考

古学民族学研究所・中世研究室研究員

中澤寛将

青森県教育委員会文化課主事